

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	鳥栖市立基里中学校
1 前年度 評価結果の概要	学力向上を含め、昨年度の目標は概ね達成できた。本校の職員の構成を考えると事務の効率化と人材育成は大きな課題であり、今後もさらに進めていかなければならない課題である。また、市内初のコミュニティースクールとして2年が過ぎ、運営が軌道にのってきた。これからも地域との連携を図り互いに協力をしながら、課題を解決していかなければならない。
2 学校教育目標	「誇りと生きる力を身につけ、心身ともに豊かな基里っ子の育成」 ～元気なあいさつ・時間に敏感・夢に挑戦～
3 本年度の重点目標	(1) 小中一貫教育の充実と発展 (2) 小規模校の利点を生かす(学力向上) (3) 豊かな心を育み健やかな体づくり (4) 学校・保護者・地域との連携した教育の展開

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目							
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・校内研修等により、教職員間で情報や授業方法などの共通理解を図り、取組の促進を図る。 ・生徒全員が学びたいと思うような課題設定や教材を工夫し、生徒の興味関心を高める授業を行う。	A	・授業のめあてや振り返りを「授業づくりのステップ1・2・3」のステップ3を意識して具体的に示している教員が約80%であり、多くの教員が指導法を工夫改善し、生徒の学力向上に努めている。	A	・授業のめあてや振り返りに関する質問に足して、生徒の肯定的な回答は、ともに95%を上回っている。生徒が教員の指導法の工夫改善について正しく認識できていると思われる。
	○小中連携による学力向上では、共通理解と共通実践を通して読解力の向上に努める	○読解力の向上のために工夫改善した授業をそれぞれ学期に1回以上行う	・互いの授業参観を実施することで、情報交換を図り授業改善を行う。 ・図、表、グラフの読み取りなどを多く取り入れ、イメージ同定の力を向上させる。	A	・相互の授業参観においては、TTによる特別支援を利用して実施している。 ・授業において図表読み取りの課題を設定するなど、生徒の基礎的読解力の向上に努めた教員が約80%であった。	A	・文章や問題文などをよく読み、内容を理解しようとしているかの質問に対し、生徒の肯定的な回答が95%を上回っている。教員の取り組みが、生徒の読解力への意識の向上につながったものと思われる。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○全職員が人権・同和教育の重要性を認識するため、1人1回以上研修会に参加 ○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・担当を中心に、各研修会の案内と参加の呼びかけを行い、研修計画にもとづいて参加・実施に努める。 ・学年や学級の実情に合わせて、道徳教材の研究を継続的に行い、情報交換をする。	A	・8月に小中合同による人権・同和教育の研修会を実施した。 ・道徳教材の研究や情報交換を継続的に行った教員は75%以上であり、生徒の道徳に関するアンケートにおいても、肯定的な回答をした生徒は95%であった。	A	・あなたは、お互いのよさを認め合い、思いやりの心をもって接したり、行動したりしているかの質問に対し、生徒の肯定的な回答が95%を上回った。継続した取り組みが生徒の情操教育に寄与したと思われる。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等について組織的対応ができていますと回答した教員80%以上	・「いじめ・いのちを考える日」の集会を実施し、思いやりのある生徒の育成を図る。 ・月末に「生活アンケート」を行い、生徒の実態を把握し、いじめの早期発見・早期解決につなげる。	A	・zoomを利用してリモートによる集会や人権週間においていじめ防止等の取組を実施した。 ・「生活アンケート」を活用し、いじめの防止や早期発見に組織的に取り組んでいると回答した教員は95%以上であった。	A	・「いじめ」や「トラブル」があったとき、先生は素早く対応しているかの質問に対し、生徒の肯定的な回答が90%を上回った。毎月末の「生活アンケート」等の取り組みが、素早い対応につながったと思われる。
●健康・体づくり	①運動習慣の改善や定着化	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒80%以上	・保健体育の授業において、運動の意義や効果に触れさせながら、運動習慣の重要性を理解させる。 ・行事の精選と校時を守ることで部活動の時間を確保する。	B	・アンケートの結果、授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の生徒は、3年生8%、2年生83%、1年生89%であった。3年生が部活動終了後に運動する機会が減少していると思われる。	A	・アンケートの結果、授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の生徒は、2年生で90%、1年生で80%を上回った。 ・コロナ禍もあり、行事の精選や短縮等が行われ、部活動の時間が確保できたと思われる。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・OJTの日常化と連携による校務の役割分担を行い、時間外勤務を削減する。 ・毎週月曜日の定時退勤日の実践を行う。 ・部活動の計画的な運営と休業日の実施	B	・働き方改革を意識して、業務の改善や勤務時間の適正化を進めていると回答した教員は75%以上であった。 ・アンケート調査の結果、部活動および社会体育では週1日以上休養日が設定されている。	B	・一斉臨時休業が明けた5月以降、45時間以上、時間外に勤務した職員は平均9.5名であった。昨年度より業務内容は減ったが、教材研究や部活動指導、研究発表会準備や入試事務等、45時間以内の時間外勤務で終わる業務量ではないと感じる。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価	
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果
★小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率80%以上 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上公開した学級率80%以上	・地域の文化や人材等を生かした体験学習を積極的に行う。 ・文化発表会や参観授業において情報発信を積極的に行う。	A	・今年度はコロナウイルス感染症拡大防止のため、授業公開や授業参観は実施しなかった。3年では文化発表会時に、1、2年は学年懇談会時に、事前に撮影していた作品等を動画で公開した。	A	・11月に小中一貫教育研究発表会を実施し、鳥栖市内を中心に80名以上の教職員が参加した。1年では小学校からの乗り入れ授業、2年では教科日本語の小中交流授業を公開した。参観者からの感想も好評であった。
○開かれた学校づくり	○地域と連携した学校づくりの推進	○保護者、地域の方の学校行事への参加者増を目指す。 ○地域の人材を生かした授業や講演会を3回以上設定する。	・各種たよりや通信、HP、メール等を活用し、行事等の情報の発信を行う。 ・コミュニティスクールの運営を通し各種団体、地域等の協力を図り、教育活動の活性化を図る。	B	・今年度はコロナウイルス感染症拡大防止のため、学校行事への保護者や地域の方の参加を控えた。また、講演会等の開催も行わなかった。	A	・各種便りを定期的に発行した。また学校便りについてはHP上に公開した。今後は、年間行事や月行事等もHP上に公開することを検討している。

●…県共通 ★…鳥栖市共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・今年度は、コロナ禍の中で計画通りにできず、行事の中止や縮小が求められた。これを機会に行事の見直しや学校の運営の仕方を見つめ直し、働き方改革を進めていきたい。 ・生徒の学力や生活態度はある程度成果を上げており、落ち着いた学校となっているのは、現在の取組が正しい方向である結果と思われる。今後も、今の状況を続けられるように、チェックを怠らないようにしていきたい。
--------------------	---

【様式2】

学校関係者評価書

学校名 鳥栖市立基里中学校

1 学校関係者評価実施状況

(1) 学校関係者評価実施日 令和 3年 3月17日 (水)

(2) 資料 (評価の参考とした資料)

学校評価計画、学習状況調査等の試験結果、3年生の進路状況  
保護者アンケート結果、生徒アンケート結果

2 評価

(1) 学校運営について

①目標の妥当性及び達成状況

- ・地域との連携はコロナ禍において、難しく今年度はできなくても仕方ない。
- ・コロナ禍において、できることを工夫しながら取り組んでいるのは評価できる。

②学校の取組状況の適切さ及び自己評価結果の妥当性

- ・オンライン授業や授業の内容などを、時世に合わせて対応しているのが成果になっている。
- ・コロナ禍での対応には評価に値する。

③改善方策の適切さ

- ・適切に方策を練っている。
- ・人員の増員が一番の改善になると思う。

(2) 教育活動について

①目標の妥当性及び達成状況

- ・緊急事態宣言から始まり、はじめてのことばかりにも係わらず、指導が統一されている。
- ・コミュニティスクールは少しずつだが目的を達成していると考えられる。
- ・小中一貫教育としての目標設定は妥当と思われます。
- ・目標達成のためには、小学校から継続しての取組が必要と思われます。継続的な取組をお願いしたい。

②学校の取組状況の適切さ及び自己評価結果の妥当性

- ・ 堅実な評価で、管理職は地域との連携も万全で、学校が落ち着いてきた。
- ・ 適切であると評価する。

③改善方策の適切さ

- ・ 臨機応変な対処が度々見られた。
- ・ 適切であると評価する。

3 その他学校に対する意見や提言

- ・ コミュニティスクールとしての小中連携も年々その効果を確立されていて、学校が落ち着いているのが分かる。
- ・ (教育委員会への要望) 生徒の教育指導にもっと邁進してもらえるように、コミュニティスクールとして、先生方の負担を軽減すべく仕組みを改善するべきである。
- ・ 先生方の仕事の量が多すぎるので、軽減するために人員を増やしていただきたい。そして、生徒との時間を多く持っていただきたい。
- ・ コロナ禍において、リモート授業が主流になると思われます。学校での対策や先生方の対応も少数で大変だと思われませんが、よろしく願います。
- ・ まちづくり推進センター、まちづくり協議会としても学校運営協議会に必要な応援や対応を行いたい。